

教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	サステナブルな次世代型高精度放射線治療専門医・研究者養成コース(正規課程)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	3(早期修了)～4年						
養成すべき人材像	あらゆる年齢のすべての患者さんが、苦痛や不安を感じることなく、高い生活の質と社会生活を維持しながら、がん治療に取り組むことを可能とする、安心・安全で精度の高い次世代型放射線治療を提供できる人材						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p><必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、発表表現演習(2単位)、研究指導(8単位)、研究公正B(1単位)、医学研究概論(1単位)、医学研究基本演習(1単位)、医学研究セミナー(1単位)</p> <p><選択科目> CS演習(1単位)、SP演習(1単位)、腫瘍遺伝学外科実習(4単位)、がん医療学実習(6単位)、他専門科目</p>						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医(日本医学放射線学会)の研修施設として設立						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	根治治療から緩和的治療まで、個々の状況に応じて集学的にシームレスに対応できる幅広い知識と経験を有し、かつ先進的、高精度な放射線治療技術と新たなデータサイエンスの分野に精通し、ゲノム情報や新規画像解析技術を統合した次世代型低侵襲治療の推進に貢献できる放射線腫瘍医を養成する。						
指導体制	放射線治療専門医、医学物理士、がん放射線療法認定看護師、放射線治療専門技師が協働して行う。						
修了者の進路キャリアパス	放射線治療専門医を取得し、大学病院または関連病院における放射線治療の質の向上と診療の充実をはかる。留学や国際学会を通じて国際的視野を養うとともに、次世代型高精度放射線治療の開発、推進に貢献する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	0	1	0	1	3
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	放射線科領域の専攻医募集において、近年、大阪府はシーリング対象地域となっており、年度毎の専攻数医は放射線科全体で平均3～4名、内、放射線治療を希望する専攻医は2年に1名程度であることから、5年間の大学院志願者数においてもほぼ同数の3名を目標数とした。						